

ニホンジカの効果的な被害対策

島根県においてシカの被害が多いのは、島根半島の出雲北山山地と湖北山地です。一方、中国山地でも近年は広島県から侵入してきたシカが邑南町や飯南町などで増えつつあります。

シカの生息数が増えると、イネ苗、野菜類、果樹などを食害します。果樹では、後脚で立ち上がって、2m程度の高さまでの葉や果実を食べます。

被害対策は、田畑への防護柵の設置が最も有効です。シカは、2m近くもジャンプをするので、柵は2m程度の高さが必要です。ただし、柵の下部から潜り込む場合が多いので、ペグでしっかりと下止めをして、定期的な点検管理が必要です。電気柵も1.5m程度の高さにして、電線の間隔は下部30cm、上部40~50cmの4段張りにします。イノシシの侵入防止も併用する場合は、下部の電線の間隔を20cmに狭くして5段張りにします。強風が当たらない場所であれば、電線はシカから良く見えるように幅広のリボン状のものを選ぶと良いでしょう。近づいたシカは、電線に鼻を近づけて触れた瞬間に電気ショックを受けて、柵には近づかなくなる学習効果も期待できます。ただし、下草の除草をしないと漏電するので、定期的な草刈り管理が欠かせません。

また、シカを誘引しないように、くず野菜などを田畑へ捨てないことやシカの好餌となる稲刈り後のヒコバエをなくすために耕起することも大事です。(島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 金森弘樹)



シカとイノシシ防止用の電気柵（高さ1.6m、下部の電線間隔20cm）